

Contents Vol.226

2022.4.1

01 **ごあいさつ**.....
新入生の皆さんへ

02 **巻頭特集**.....
1 卒業式
2 淵本、梅林教授が最終講義
3 大体大PEOPLE
瀬戸口 淳・フリースタイルスキー・モーグル日本代表トレーナー

07 **NEWS**.....
1 就職状況
2 教員採用試験
3 令和4年度入試状況
4 サッカー部の高橋がJ3宮崎へ
5 ポッチャ日本選手権 内田(教育1年)が初優勝
6 陸上競技場改修工事が終了
7 「本物を学び、極める」
大体大ビジョン2031策定
8 大学院昼夜開講制スタート
9 キャリアフェスタを開催

11 **EVENT**.....
1 日本部活動学会研究集会を開催
2 特別支援教育「教育講演会」
3 セーリング 富部(大学院)がアジア大会代表
4 浪商学園100周年記念ダンス
「Nami ダン」ムービー完成
5 大島謙吉スポーツ賞を授与
6 学長特別表彰

14 コラム「ボーシャー」
コラム「窓」

記事内職階、学年等は令和4年3月末日による

新入生の皆さんへ

柔軟な思考力で 社会を支える人材に

学校法人浪商学園

理事長 野田 賢治



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。学園を代表して心よりお喜び申し上げます。

大阪体育大学は、学校法人浪商学園が設置する教育機関の1つです。浪商学園は1921（大正10）年に創立され、昨年創立100周年を迎えました。学園の建学の精神は「不断的努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」。この建学の精神を体现できる人材の育成を目指しています。

学園は創立以来スポーツ活動を奨励してきました。浪商高校第2代校長、野田三郎（大阪体育大学初代学長）は「スポーツを通じた青少年の健全育成」の理念の下、野球を筆頭に運動部活動を積極的に支援しました。その強い思いが大阪体育大学開学へ結びつきました。

大阪体育大学は、東京オリンピック開催の翌年1965（昭和40）年に開学し、今年で創立57周年を迎えます。開学にあたり、東京オリンピック選手強化対策本部長と選手団長を務められた後に日本人初のオリンピック平和賞を受賞された大島鎌吉先生（1932年ロサンゼルスオリンピック陸上三段跳銅メダル獲得）を副学長として、またオリンピックスポーツ科学委員で、後に日本体育学会会長に就任された加藤橘夫先生を学部長としてお迎えしました。

西日本初の体育・スポーツの専門大学として、体育・スポーツを通して0歳から100歳までの健康を維持することを標榜し、産業体育・社会体育・学校体育の3コース制で教育をスタートしました。当時、この分野で最先端におられた大島、加藤両先生の思いが、本学の教育の原点です。50年以上経った今も色あせることなく、脈々と受け継がれています。

新型コロナウイルスの感染が日本で確認されて、すでに2年が経過しました。そんな中、2月に北京で厳戒態勢で冬季オリンピックが開催されました。トップアスリートの素晴らしいパフォーマンスが、コロナ禍で疲弊していた人々の心を癒してくれました。ウィズコロナが常態化するニューノーマルの時代において、改めてスポーツの果たす役割を再認識することができました。

今、社会では、時代の変化に対応し、柔軟な思考力で社会を支え、自ら考え社会改革に挑める。そんな人材が求められています。

大阪体育大学での学びが、未来社会で活躍できる人間になるための近道となるでしょう。新入生の皆さんが、充実した学生生活を送られることを願ってあいさつとします。

貴重な時間をどう使うか 決めるのは自分自身

大阪体育大学

学長 原田 宗彦



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学での新しい生活に対し、皆さんの胸中は期待と不安が入り混じっているのではないのでしょうか？ 勉強、クラブ活動、アルバイト、下宿生活、友人関係など、新しい生活が始まりますが、私からのアドバイスは、いささか凡庸ながら、時間は貴重で、それをどう使うかをよく考えて欲しいということです。

大学の4年間は、日数に換算すると1,460日で、時間に換算すると35,040時間になります。数字だけ見ると随分と長いようですが、この3分の1は、睡眠や入浴、そして食事等の生きていくために必要な「生活必需時間」です。となれば、皆さんが自由に使える自由裁量時間は、残り3分の2の23,360時間で、日数に換算するとわずか973日ということになります。

長いようで短い4年間ですが、時間をどう使うかで、皆さんの将来も変わってくるのではないのでしょうか。時間の有効利用には、強い意志と環境が必要です。しかし強い意志を身に着けることは難しく、それには明確な目標が必要になります。一般的に見て、大学入学時に将来の明確な目標を掲げることは簡単ではありませんが、その点大阪体育大学は、クラブでの競技力の向上や教員採用試験、そして体育、スポーツ、教育にまつわる他の資格や免許の取得機会が豊富に準備されています。

新入生の皆さんには、ぜひひとつ目標を定めて大学生活をスタートして欲しいと思います。目標が定まれば、時間の使い方にも工夫が生まれ、勉強や課外活動にもメリハリが生まれます。私の父親世代が好んで読んだ本に、「三太郎の日記」（阿部次郎）という人生読本があります。その中に、「何を与えるかは神様の問題である。与えられるものをいかに発見し、いかに実現すべきかは人間の問題である。」という一節があります。神様から与えられた「もの」を見つけ、実現に向けて努力することが大切というメッセージですが、私には、そのための時間と場所を与えてくれるのが大学ではないかと思うのです。

高校時代と異なり、大学は基本的に自由です。自分で授業を選び、自分で1日の時間の過ごし方を決めるのです。クラブの練習と勉強のバランスをどうとるか、どのゼミを選ぶかも、すべては皆さんの選択になります。時間は973日です。新入生の皆さんには、自分が日々成長していると実感できる、有意義で楽しい学生生活を送ってほしいと願っています。



修了式・卒業式を挙行

令和3年度 午前・午後に分かれ実施

修了式・卒業式では、大学4年間の学びやクラブ活動などをまとめた思い出動画を鑑賞した後に開式。原田宗彦学長が代表の学生に学位記・卒業証書を授与した。続いて式辞に臨み、「私の好きな言葉に『大きな夢、小さな一歩』があります。皆さんは大いに心の中で大言壮語し、いつかは実現するぞという気持ちをもってほしい。そして、大志を抱いた限りは着実な努力が必要です。ダウンタウンの松本人志さんは『100点は無理かもしれませんが、でもMAXなら出せるやろ』と名言を残しています。皆さんには大きな夢を抱きながらも、コツコツと小さな一歩を着実に歩んでほしいと願います」皆さんには、大阪体育大学で培っ

た豊かな人間力で幸福な社会づくりに向けて奉仕してほしいと思います。皆さんの前に輝かしい未来が開けますように」と卒業生に語りかけた。

記念品紹介などの後、送辞は、在学生を代表して学友会会長の福島隼人さん（教育学部3年）が務め、「私たち後輩の心が折れそうな時に励ましてくださった先輩方の卒業は、うれしくもあり寂しくもあります。今日を境に自ら選んだ道に自信を持ち、輝かしい未来に向かう先輩たちを私たちは心より応援しています」と卒業生にエールを送った。

謝辞は、大学院・中田開人さん、体育学部スポーツ教育学科・桑原啓さん、体育学部健康・スポーツマネジメント学科・水落康太さん、教育学部教育学科・吉岡幹登さんがそれぞれ恩師への感謝の思いや社会人としての決意などを語った。

また、各コースなどに分かれた伝達式では、修了生・卒業生一人ひとりにゼミの指導教員から学位記・卒業証書が授与され、スポーツや学業で優れた成績を取めた大島謙吉賞6名、スポーツ優秀賞42名、学業優秀賞21名、功績賞7名の学生が表彰された。



各コースなどに分かれた伝達式で卒業証書が授与された



卒業証書を受け取る卒業生

最終講義

テニスのコーチングとスポーツ科学

梅林薫先生



最終講義の動画



大阪体育大学スポーツ局長の梅林薫・体育学部教授（運動生理学など）の最終講義が2月24日、開学50周年記念館（L号館）で、「テニスのコーチングとスポーツ科学」40年の歩み」のテーマで行われた。

梅林教授は大阪府立茨木高校、筑波大学、同大学院修士課程を経て1981年から本学で助手として勤務し、2001年から教授。専門分野は運動生理学、体力科学、コーチング学。2011～2015年に体育学部健康・スポーツマネジメント学科長、2007～2021年にトレーニング科学センター長・スポーツ科学センター長。2021年からスポーツ局長を務めた。学外では、日本オリンピック委員会強化スタッフ（スポーツ医・科学）、日本テニス協会強化本部スポーツ科学委員会委員長などを務めたほか、本学テニス部では1981～2013年に男子監督、2015～2021年に女子監督を務め、関西学生リーグ男子1部優勝などを果たした。

最終講義は対面授業とオンラインのハイブリッドで行われ、学生や教職員、ゼミ・テニス部などの教え子や関係者ら対面授業で77名、オンラインで135名の計212名が聴講した。

梅林教授は、本学に来てすぐ関西リーグ4部だったテニス部男子監督を任され、当時の主将と話し合っただけでなく、当時の主将と話し合っただけでなく、6年後に1部優勝を果たしたことを当時の写真も交えて振り返った。日本テニス協会医科学委員会委員とし

て、当時中学3年で全日本選手権シングルスを制した沢松奈生子選手のコンディショニングサポートを約10年間行い、パフォーマンス向上だけでなく障害予防にも貢献したことや、サポートで得た知見を本学の学生にフィードバックし、学生のレベルアップにつなげたことなどを説明した。

同委員会の委員長だった約10年の間にJISS（国立スポーツ科学センター）が完成してエリート選手のスポーツ科学サポートが本格的に始まり、ジュニア時代の錦織圭選手、西岡良仁選手らを対象に測定・トレーニング合宿などを実施したことも当時の写真やデータで振り返った。

さらに、本学のトレーニング環境やサポート体制の歴史も紹介し、「スポーツ科学はスポーツを取り巻く事象を分析して法則性を見だし、得られた理論や知見を実践の場に応用する学問」「コーチングは教えるのではなく選手に

質問をして考えを引き出し、複数の視点をもたらし」と語った。

梅林教授は最後に、「大阪体育大学での41年間、いろいろな人に支えられてきた。常に努力すること、常に学ぶ姿勢が大切で、感謝の気持ちを忘れないでほしい」と参加者に語りかけた。



原田宗彦学長から花束を贈られる梅林薫教授



参加者が集まったの記念写真



淵本、梅林教授が

大阪体育大学一筋に長年、本学の発展に尽力してきた副学長の淵本隆文体育学部教授と、スポーツ局長の梅林薫教授が65歳の定年を迎えて2022年3月で退職となり、2月にそれぞれ最終講義が行われた。いつも学生に親しく真摯に接してきた2人の最後の授業に数多くの教職員、学生らが聴き入り、授業後は盛大な拍手が送られた。



47年間を振り返って

淵本隆文先生

大阪体育大学副学長の淵本隆文・体育学部教授（バイオメカニクス）の最終講義が2月25日、開学50周年記念館（L号館）で「47年を振り返って」のテーマで行われた。

淵本教授は1979年に本学体育学部を卒業して本学で助手を務め、1999年から教授。2015～2019年に体育学部長、2019年から副学長を務めた。学外では2016～2020年に大阪体育学会副学長を務めた。

最終講義は対面授業とオンラインのハイブリッドで行われ、学生や教職員、部長・監督を長く務めたレスリング部の部員ら約150名が聴講した。

淵本教授は本学入学からの47年間で振り返った。スポーツ科学を志したきっかけは、1年生の時に図書館で「体育を科学する会」のポスターを見たことで、その後、「大体大に初めてコン



最終講義では思い出の写真も多数紹介された



元副学長の福田芳則名誉教授らから花束が贈られた

ピューターが入ったらしい」とのうわさを聞いて飛んで行った」という。金子公有元副学長（バイオメカニクス）、田村清元学長（スポーツ科学）らの指導でスポーツ科学の研究に打ち込んだ日々を懐かしそうに語った。

また、具体的な研究成果を分かりやすく解説した。野球の一塁へのヘッドスライディングは、「本当に解説者が言うように走り抜けるよりも不利なのか白黒をつけたい」として野球部員の協力を得て分析した結果、ヘッドスライディングは地面と擦れてブレーキがかかるので遅くなるが、タッチした後にスライディングすると走り抜けるよりも早くなる例がいくつも出た。

剣道の面打ちが速いとされる学生5名とそれ以外の5名を分析した研究では、打突までの時間は竹刀の上げ下げのスピードと有意な相関が出ず、剣先の水平移動距離とだけ有意な相関があり、達人は近いところから打っていたという考察を引き出した。



聴講者が集まるの記念写真

このほか、研究や大学の運営でともに汗を流した方々との写真など豊富な資料をもとに、貴重な話やエピソードに聴講者は引き込まれていた。

講義の後、神崎浩体育学部長、元副学長の福田芳則名誉教授、長らく部長・監督を務めたレスリング部の姫路文博監督から花束が、堤裕之情報処理センター長から記念品が贈られた。



チーム一丸でメダル獲得 五輪で選手支える喜び実感

フリースタイルスキー・モーグル日本代表トレーナー

瀬戸口 淳さん

瀬戸口淳（せとぐち・じゆん）
1978年4月21日生まれ。43歳。大阪体育大学体育学部体育学科卒、33期。硬式野球部出身。卒業後、理学療法士の資格を取得し、2015年、大阪府羽曳野市の運動器ケアしまだ病院に勤務。2019年、モーグルの堀島行真選手のトレーナーを務め、世界各地での試合に帯同。今年2月の北京冬季オリンピックでも日本代表のトレーナーとして、堀島選手の銅メダル獲得に貢献した。

硬式野球部時代、スポーツ整形外科でけがの治療を受けたことをきっかけに理学療法士の道を志し、フリースタイルスキー・モーグルの日本代表チームトレーナーとして今年2月の北京冬季オリンピックに参加。堀島行真選手（トヨタ自動車）の日本選手団メダル第1号の獲得に貢献した。

大阪体育大学に入学した理由は。

小学4年から続けた野球を全国大会を狙えるような場で続けたいと思い、大体大一本で志願しました。また、高校2年の時、ピッチングでひじを痛めて今、勤務しているしまだ病院にリハビリで通い、3カ月ぐらいで投球を再開できるようにになりました。スポーツ選手をサポートする仕事にひかれたのも、大体大に進むきっかけになりました。

学生生活は。

野球部は甲子園に出場した選手が何人もいて、2年上には元大リーグの上原浩治さん。いっしょにプレーしているのは大変でした。現役は3年秋で終わったのですが、4年の時、投手コーチとして明治神宮大会に出場したのはいい思い出です。

トレーナーを志した理由は。

入学した年に生涯スポーツ学科が新

卒業後は。

大阪医専の夜間部に昼は仕事をしながら4年間通って理学療法士の資格を取り、それから4年間、大阪市の西淀病院に勤務しました。ここはPNFという、脳に刺激を与えることで脳から筋肉に命令を伝える治療法を積極的に実施している病院です。患者さんの大半は高齢者でスポーツとは無縁でした。しかし、大学生のころから頭の片隅に、PNFはスポーツ選手のケアに応用できるという思いがあり、必死に学びました。

その後、職場の上司が自費診療でリハビリテーションを提供する施設を開設し、4年間勤務しました。シビアナ世界で、1回8000円をいただくのですが、患者さんは私たちのリハビリに満足すればまた予約してくれますが、そうでなければもう来ない。数多くの同業者との競争原理が強く働く場で、腕が磨かれたと思っています。

スポーツ選手のサポートはいつから。

37歳の時、しまだ病院に移ってからです。8年間かけてようやく「国際

PNF協会認定セラピスト」の資格を取得し、満を持してスポーツ選手をサポートしたいと思い、お世話になりました。しまた病院はスポーツ整形外科、リハビリテーション科があり、以前、近くに近鉄バファローズの本拠地の藤井寺球場があったことから、多数の近鉄の選手をサポートするなど実績がありました。ただ、スポーツ選手はクラブ活動の生徒・学生のケアが多く、トップ選手は3年前、シヨートトラックでオリンピック出場経験のある選手を担当したのが初めてでした。

北京オリンピックではモーグル日本代表のトレーナーを務め、銅メダルの堀島行真選手らをサポートしました。きっかけは。

勝田紘史院長がモーグルナショナルチームのチームドクターを務めていて、3年前の4月、腰痛の治療で来院していた堀島選手と会い、勝田院長から「担当しないか」と言われました。それから遠征に帯同するようになり、6月にナショナルチームの国内合宿、12月にフィンランドで行われたワールドカップ開幕戦に参加しました。

ナショナルチームのトレーナーの仕事とは。

遠征にはトレーナーは3人同行し、うち鍼灸師1人がストレンクスを担当します。理学療法士2人がコンディショニングを担い、ケガからの復帰をサポートします。遠征先からチームドク

ターの勝田院長に選手の状態を連絡し、診療が必要な場合は医師に委ね、診療不要と判断された場合は私たちがケアします。関節の動きを良くしたり、歩き方を変えてみたり、骨の配列をミミらずらして重心の位置を変えたり。繊細なケアです。

北京オリンピックでのモーグル・チームジャパンの目標は。

チームとして「この中から金メダリストを出す」という思いが強かった。直前のW杯で堀島選手、川村あんり選手が男女優勝し、国別対抗でもトップ。この勢いをオリンピックにつなげたいと考えていました。

しかし、開会式前日の予選で堀島選手はまさかの16位。

堀島選手は今季、W杯全戦表彰台。予選はこれまでに見たことのない光景でした。もちろん決勝で巻き返すことは可能でしたが、本人はプレッシャーを感じていたと思います。予選の後、自分がどんな声を彼にかけるのがベストなのか、分からなかった。決勝前夜、堀島選手は開会式に参加し午後11時半、選手村に戻ってきました。0時から2時までマッサージなどをしましたが、自分自身、「いい声をかけないと、と思うのは違うな」と。「いつも通り」を心がけました。

そして決勝。

午後4時前、選手村から選手を会場

に送り出しました。堀島選手が銅メダルを獲得した時の気持ちは、ほっとした思いが半分、「彼のすごさはこんなものじゃない」という悔しさが半分でした。

オリンピックで得たものは。

これほどの重圧を感じたのは初めてです。そんな中で自分の役割を果たすためには、まだまだ足りないところがあると実感しました。どう声かけすれば、もう少し選手の背中を押せるのか。これは、普段の選手や患者さんのケアにも通じることです。

本学には、将来、トレーナーなどが数多くいます。学生に伝えたいことは。

トレーナーはとにかく選手全員を元気にスタート台に立たせることが役割です。みんながスタート台に立った時には「良かった」と思えます。また、選手が結果を出した時はとてもうれいものです。私自身トレーナーでなかったら五輪に関わることはなかったでしょう。トレーナーは夢のある仕事です。大体大で過ごした4年間は本当に充実していました。学生、教員にスポーツという共通のテーマがあり、みんながそのテーマに浸っていました。母校から1人でも多くスポーツを支える仕事に携わってくれたら、うれしいです。



理学療法士としてしまだ病院で勤務する瀬戸口さん

就職状況

本学学生に企業の期待高まる

公務員も安定した合格者輩出

新型コロナウイルス影響下での就職活動が終了した。

2020年から感染症の影響により採用試験方法が大きく変わった。オンラインシステムを活用した選考だ。学生は柔軟な対応でオンラインシステムを使いこなし選考に挑んだ。キャリア支援センターでは、学生により自信をもって選考に臨んでもらうため、オンラインでの面接対策や講座を実施した。また、筆記試験・論文対策についても、早期から学習支援室と連携し、オンラインでの対策を講じてきた。

令和3年度の公務員の現役合格者は3月1日現在、延べ70人。内訳は国家公務員（刑務官・自衛官・法務教官・海上保安官）は13人。地方公務員（警察官・消防官・行政職）は57人。

昨年度の86人より減少したが、警察官・消防官だけでなく、国家公務員・行政職と安定して合格者を輩出した。本年度の公務員試験の選考は延期や中断が多かったが、集中力を切ることなく粘り強く取り組んだ結果といえる。

恒例の全学イベントである「キャリアフェスタ」も、オンライン形式で開催した。3年生対象は9月に開催し、業界大手の人事担当者によるライブ配信の講演を含め、2日間で全22の企業・

団体の動画を配信した。1、2年生向けは2月に開催し、2年生対象は今年各業界から内定・合格が決まった4年生30人から、後輩に向けて熱心な講演動画を配信。また、1年生には「将来について考えよう」をテーマに、オリックス・バファローズ球団本部編成部アマチュアスカウトグループスカウトの乾絵美さん、開星中学校・高等学校教諭の塚田秀典さんが講演した。

キャリア支援センターの特徴の一つである「学内セミナー」は、コロナ禍の中で本年も多くの企業団体により、昼休みにオンライン・対面のハイブリッドでの説明会を実施した。

例年、本学学生を採用している企業をはじめ、医療・食品・スポーツ業界等幅広い業界を知ること、学生の進路選択につながった。現段階（令和4年3月1日）では、企業等に就職する者は333人（企業、スポーツ関連、医療、福祉、自営業）。各企業の採用活動が厳しい中でも、体育会系学生に対する評価は高く、本学の学生に対する期待が一層高まっていると感じる。

【キャリア支援センター】

教員採用試験

63人 現役合格者

2年連続過去最多

年度別教員採用試験（現役）合格者状況

卒業年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度
合格者数	27人	52人	47人	55人	63人

令和3年度実施（令和4年度採用）の公立学校教員採用試験の現役合格者は、20の自治体で延べ63人となった。前年度の現役合格者55人を上回り、2年連続で過去最多となった。

内訳は、大阪府12人（大阪・堺市・豊能町除く）、大阪市9人、堺市1人、豊能町1人、兵庫県3人（神戸市除く）、神戸市1人、京都府3人、和歌山県1人、滋賀県4人、高知県8人、愛媛県6人、鳥取県2人、岡山県1人、横浜市4人、福岡県1人、愛知県1人、石川県1人、富山県2人、山口県1人、佐賀県1人。学校種別では小学校（小中いきいき連携を含む）39人、中学校13人、高校1人、特別支援学校10人。

昨年度に引き続き、本年度の教員採用試験もコロナ禍の中、いくつかの自治体で実施方法や試験内容の一部が変更になった。今年度の4年生も入構禁止の期間があり、リモートでの個人面接や集団面接の練習を行った。

本学では、1年次のキャリアガイド

ンス、2年次のグループ面談、3年次前期の全員の個人面談などがある。大規模校では学生全員との面談は難しいと思うが、本学は学生の顔を覚えるくらいに一人ひとりと徹底して向き合う。それを機にモチベーションが上がり、コツコツ勉強する学生が多い。面談では試験対策だけでなく全般的な悩みの相談もあり、カウンセリング効果が利いていると思う。また、学部の先生方とは別に、学習支援室がSPI対策を徹底し、各種支援講座、オンライン講座、教職支援センターの校長経験スタッフ3名による、時に厳しいほどの面接練習なども合格に向けた武器になっている。

近年、教員採用試験が易化していると言われている。確かに小学校教員の採用試験倍率は、10年ほど前は10倍前後だったが、ここ数年を見れば2〜5倍程度になっている。一方中学校、高校の全教科の平均では低下傾向にあるが、保健体育はいまだ高倍率を保っている。この倍率低下には様々な要因が絡んでいるが、長時間労働などの要因がクローズアップされており、働き方改革が進められている。教員を目指す学生にとって、教員採用試験合格はゴールではなくスタート。教育現場は常に変化しており、学校現場では新人教員も即戦力として役割を担っていかなくてはならない。真摯な気持ちで「学び続ける教員」でないと変化に対応できない。

本学で教職課程を履修している学生は、教育に対する熱い思いや、子供に対する愛情が深い者が多い。本学の4年間で人間的にも成長し、勉学を通して知識技能を身に付け頑張ってもらいたい。

【教職支援センター】

令和4年度入試

総志願者 2370人

同学問系統志願者の 年内シフトが更に加速!

<体育学部>

入試制度	学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
総合型選抜	スポーツ教育学科	30	163	163	68
	健康・スポーツマネジメント学科	20	86	86	36
	計	50	249	249	104
スポーツ特別総合型選抜	スポーツ教育学科	97	122	122	122
	健康・スポーツマネジメント学科	23	48	48	48
	計	120	170	170	170
DASH アスリート特別総合型選抜	スポーツ教育学科	3	1	1	1
	健康・スポーツマネジメント学科	2	0	0	0
	計	5	1	1	1
学校推薦型選抜 ※内部、指定校推薦型選抜含む	スポーツ教育学科	105	475	473	229
	健康・スポーツマネジメント学科	80	322	320	256
	計	185	797	793	485
一般選抜A日程	スポーツ教育学科	65	227	221	43
	健康・スポーツマネジメント学科	60	161	156	106
	計	125	388	377	149
一般選抜B日程	スポーツ教育学科	20	93	48	15
	健康・スポーツマネジメント学科	15	57	26	13
	計	35	150	74	28
大学入学共通テスト利用選抜・前期	スポーツ教育学科	2	34	34	7
	健康・スポーツマネジメント学科	2	29	29	6
	計	4	63	63	13
外国人選抜	スポーツ教育学科	若干名	1	0	0
	健康・スポーツマネジメント学科	若干名	1	1	0
	計	若干名	2	1	0
合計	スポーツ教育学科	320	1116	1062	485
	健康・スポーツマネジメント学科	200	704	666	465
	計	520	1820	1728	950

<教育学部>

入試制度	学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
総合型選抜	教育学科	20	55	55	39
学校推薦型選抜 ※内部、指定校推薦型選抜含む	教育学科	50	218	214	200
一般選抜A日程	教育学科	38	139	134	25
一般選抜B日程	教育学科	7	64	31	17
大学入学共通テスト利用選抜・前期	教育学科	6	58	58	9
大学入学共通テスト利用選抜・後期	教育学科	4	16	16	10
合計	教育学科	125	550	508	300

令和4年度入試は、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で受験者に不利益が及ばないように特別措置を設けて実施された。

志願者数は、体育学部が前年度から16%減の1820人、教育学部は22%減の550人。合計で2370人だった。合格者数は体育学部950人、教育学部300人で、合計1250人だった。

体育・教育両学部の総合型選抜は304人が志願、体育学部のみ特別総合型選抜は170人が志願し、いずれも前年度とほぼ同じだった。

学校推薦型選抜は、出願時に選択す

る「受験型」を昨年から多様化している。昨年新設された「教科型」は、内容を従来の「国語・英語必須の2科目」

から、国語を必須としてもう1科目を英語・世界史・日本史から選択する方式に切り替えた。志願者数は前年度16%減の1015人だった。

一般選抜は、数学の出題範囲を他大学の同学問系統と合わせ、「数学Ⅰ・Ⅱ」から「数学Ⅰ・数学A」に変更し、受験者にとって選択しやすくした。体育学部は前年度35%減の538人、教育学部は36%減の203人、合計で741人が志願。一般選抜B日程の受験者の大幅な減少は、コロナ禍の継続

でスポーツ系の学問系統志願者の年内入試へのシフトがさらに強まった結果と思われる。

この減少を、本年新たに導入した大学入学共通テストでカバーした。体育学部は63人、教育学部は74人で、合計137人が志願した。全国から出願があったほか、各地域の上位校からの出願も多数あり、本学のブランドの評価が見受けられた。

【入試部】

サッカー部の高橋がJ3宮崎へ

大阪体育大学サッカー部男子の高橋一輝選手（体育学部スポーツ教育学科）が日本プロサッカーJリーグ・J3のテゲバジャーロ宮崎に加入した。高橋選手はFWで、181センチ、75キロ。東京都瑞穂町出身で、群馬・桐生第一高校から本学に入学した。

高橋選手は「自分は相手に体負けない推進力のあるプレーが持ち味で、体の強さや相手を背負うプレーを見てほしいと思っています。Jリーグでは、大体大サッカー部の代表という気持ちで、大学の先輩の林大地選手を目標に、J1を目指して頑張ります」とコメントしている。



©Mozomi FUJITA

内田 (教育1年) が初優勝

ボッチャ日本選手権

第23回日本ボッチャ選手権大会が1月8、9日に愛知県豊田市で行われ、大阪体育大学教育学部の内田峻介選手(1年)がBC4クラスで初優勝を果たした。

内田選手は決勝で、東京パラリンピック代表で3連覇を狙う江崎駿選手と対戦し、6-0で勝利した。

内田選手は山口県宇部市出身。山口県立山口南総合支援学校中学校2年からボッチャに本格的に取り組み、中学3年だった2017年、国を挙げた有望選手の発掘事業「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」1期生



内田峻介さん(右)が聖火に点火=毎日新聞社提供



内田峻介選手 (教育学部1年)

に。山口南総合支援学校高等学校1年の2018年、日本選手権で準優勝した。2021年4月、大阪体育大学教育学部に入部。アダプテッド・スポーツ部に所属して東京パラリンピック日本代表コーチの曾根裕二准教授の指導を受けている。日本代表「火ノ玉ジャパン」の強化選手で、東京パラリンピックは日本代表の座を逃したが、開会式で聖火リレーの最終走者として聖火に点火する大役を務めた。



日本ボッチャ協会のYouTube配信動画(QRコード)で試合の様様を視聴できます。内田選手の決勝は7時間13分20秒ごろから。優勝インタビューは8時間7分40秒ごろから。

陸上競技場改修工事が終了 トラックをブルーに一新



大阪体育大学の陸上競技場の改修工事が終了し、陸上競技場が全面的にリニューアルされた。

陸上競技場は全天候型トラック8レーン。日本陸上競技連盟から第3種公認の競技場として認定されていて、記録会で出た記録は公式認定される。2007年の世界陸上選手権大阪大会では米国代表チームが事前合宿地として使用した。

国際陸上競技連盟のルール改正と陸上競技場公認の更新検定を受けることを機に、トラックのポリウレタン表層を新しくしたほか、跳躍ピットや投擲サークルを改修した。

トラックはこれまでアンツーカーに似

た赤褐色だったが、本学のスクールカラーに近いブルーに変わった。

陸上競技部短距離コーチの貴嶋孝太准教授はリニューアルされた陸上競技場について「今回の改修工事では、学園・大学関係者、施工・設備業者の皆さんのご尽力で立派な陸上競技場に生まれ変わりました。爽やかなブルーのトラックになり、ここで好記録や好勝負がたくさん生まれることを期待したいと思います。クラブ活動だけでなく実技授業や研究活動、各種イベントのためにもいろいろな工夫がされているとても良い環境ですので、多くの方に気持ちよく利用してもらえ、多くの方に気持ちよく利用してもらえ、多くの方に気持ちよく利用してもらえ」と語っている。

「本物を学び、極める」 大体大ビジョン2031策定

「大体大ビジョン2031」		
本物を学び、極める		
<p>大阪体育大学は、「不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」の建学の精神のもと、未来社会のあるべき姿を見据え、新しい時代を切り開く能力を有する人材を社会に輩出してきました。それを支えてきたのは、教育、研究、そしてスポーツの本物を追求しようとする高い志です。本学は、本物を学び、極める大学として、これからの社会の多様な価値創造に貢献していきます。</p>		
基本戦略① 「教育」	基本戦略② 「研究」	基本戦略③ 「社会貢献」
<p>豊かな教養と体育学・スポーツ科学・教育学に関する確かな専門知識を備え、社会に貢献する本物の人材を育成します。</p>	<p>競技力の向上、教育の発展、スポーツ文化の振興、健康の増進に寄与する本物の研究を追求します。</p>	<p>体育・スポーツ・教育とその人材育成の力を活かし、一人ひとりと社会をつなぐ、次世代の豊かで健康な社会づくりを目指した事業を推進します。</p>
<p>重点施策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな教養と確かな専門知識を身に付け、広い視野と探究心をもって学び続ける力を培う教育の充実 2. 高いコミュニケーション能力と行動力を身に付け、健康とスポーツ、教育を通して、国際社会や地域社会に貢献する人材の育成 3. 健康、スポーツ、教育の価値創造に向けたカリキュラムの充実、及び時代が求める最新の教育方法と技術を体得するシステムの構築 4. スポーツ指導の新たな価値を開拓し、多様性を認め、共生社会の実現に貢献する教育の推進 5. 地域の振興と発展の核となる人材育成のための最新の知見の提供と、理論と実践の往還を図る教育システムの構築と実践 	<p>重点施策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体育、スポーツ、教育、健康の課題解決に寄与する研究の推進 2. 体育、スポーツ、教育、健康を支える特色ある研究の推進 3. 領域横断的なプロジェクト研究と産官学連携による研究の推進 4. 研究推進のための研究環境の整備 5. 大学院を中心とした国際的研究と海外学術交流の推進 	<p>重点施策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツと人材育成によるSDGs達成への貢献と体育・スポーツ・教育の価値向上の事業推進 2. 関西学生スポーツ界のリーダーとして大学スポーツの健全な発展をけん引する事業の推進 3. 競技力向上と競技発展のための学生・トップアスリートと指導者の教育・育成・サポート事業の推進 4. 大学スポーツ振興の学内推進体制の強化と事業の充実
<p>大学組織・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学経営を円滑に進め、ビジョン重点施策を推進するための法人、設置校及び関連教育機関との連携強化 ・ 大学IRを活用したPDCAサイクルに基づく大学運営 ・ 学生の募集力と就職力を維持向上させるための活動充実 ・ 大学と生徒、学生とその家族、卒業生、教職員、名誉教授、客員教授そして企業や地域社会などとの恒久的な相互理解、信頼関係の構築 ・ 教職員の役割の明確化と評価基準の構築 ・ 大体大アイデンティティと大体大ブランドの醸成を図る活動の推進 ・ 教職員の役割の明確化と評価基準の構築 ・ スペシャリストの採用・育成とその人材を活かした事務組織の運営 		

大阪体育大学は昨年12月、10年後の2031年に向けた新たな指針となる「大体大ビジョン2031」本物を学び、極める」を策定した。大阪体育大学は、「不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」の建学の精神のもと、未来社会のあるべき姿を見据え、新しい時代を切り開く能力を有する人材を社会に輩出してきた。それを支えてきたのは、教育、研究、そしてスポーツの本物を追求しようとする高い志。本学は、本物を学び、極める大学として、これからの社会の多様な価値創造に貢献していく。

大学院昼夜開講制スタート オンラインで単位取得可能に

大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科は4月から、「昼夜開講制」を導入し、夜間の講義をオンラインでスタートする。本学大学院は1992年、関西の体育系大学として初めて開設された。

昼間の時間帯に加えて夜間にも開講する昼夜開講制は他の大学院でも導入されているが、夜間開講科目をオンラインで行う例は全国的にも珍しい。

講義は、平日の1〜5限目を昼間開講、6限目（18時〜19時半）、7限目（19時40分〜21時10分）と土曜の開講科目を夜間開講とする。昼間開講科目は対面、夜間開講

科目はGoogle MeetやZoomなどの同時双方向形式で行い、オンライン授業を受講して2年間で単位を取得することが可能となる。

社会人が教育機関などで学び直すリカレント教育の充実が求められている中で、本学の試みは、地方在住の方や平日に勤務している社会人が大学院で学ぶ機会を大きく拡大することにつながる。

全国どこからでも履修が可能になるほか、自分のライフスタイルに合わせて昼間開講科目や夜間開講科目、または両方を自由に選択できる。

キャリアフェスタを開催 内定の先輩が後輩にエール

社会で活躍する卒業生や企業などへの内定が決まった4年生の話を聞いて、将来について考えるキャリアフェスタ（1、2年生対象）を2月8日、オンラインで開催した。

体育、教育学部の1、2年生が8日午前、「学部長の挨拶」と「心がまえ」をリアルタイムで視聴したほか、講演などの動画をオンデマンドで限定配信した。

1年生対象の講演は、卒業生でプロ野球球団の職員を経て、現在は開星中学校・高等学校（鳥根県）で教諭として勤務する塚田秀典さん（30期生）と、北京五輪

でソフトボール日本代表として金メダルを獲得し、オリンピック・パファローズ球団職員としてスカウト活動をされている乾絵美さんが登壇した。

また、2年生を対象に、鉄道、医薬品、マスコミ、金融などの企業や公務員、教員などの道に進む4年生29名の経験をもとに作成したプレゼンテーション動画を配信した。それぞれ、自分の就職活動を振り返り、なぜその業種や企業を選んだのか、内定を勝ち取れた理由を後輩に説明した。



趣旨説明をする中尾豊喜実行委員長



研究報告をする大阪体育大学・小林博隆准教授



大阪体育大学が企画運営を務めた日本部活動学会第4回研究集会

日本部活動学会研究集会を開催 本学が企画・運営「いま、求められる部活動のサポートとは」



初歩からの指導者向け動画について解説する大阪体育大学・比嘉靖准教授



泉大津市合同ゆる部活動での指導について説明する大学院博士前期課程1年の池田篤史さん



泉大津市合同ゆる部活動での指導について説明する大学院博士前期課程1年の八木原綾音さん



運営スタッフを務めた学生の皆さん

日本部活動学会の第4回研究集会が12月18日、大阪市淀川区の大阪ガールデンパレスで「いま、求められる『部活動』のサポートとは？―持続可能なマッチングを探る―」をテーマに開催され、全国の研究者や教育委員会、学校関係者、メディア関係者など1000人を超える参加者が集まった。大阪市教育委員会の後援の下、大阪体育大学が企画運営を担当し、本学と関西大学の学生が運営スタッフ（体育学部3年、山崎麻弥さんほか15人）を務めた。対面での開催は第2回以来2年ぶり。

研究集会では、神谷拓会長（関西大学教授）のあいさつ、中尾豊喜実行委員長（大阪体育大学体育学部教授）の趣旨説明の後、学会の設立発起人代表の長沼豊・学習院大学教授が「今、学校と地域の連携で何が問われているのか？」と題して基調報告した。研究報告（シンポジウム）では、大阪体育大学が進めている運動部活動指導者養成システムの試みについて、小林博隆准教授（体育科教育学）、比嘉靖准教授（スポーツコーチング）が報告した。小林准教授は、スポーツ庁から「運動部活動改革プラン」事業を受託し、独自の養成プログラム「グッドコーチ養成セミナー」を開発して2021年度から学生38名が受講し、年間14回のセミナー修了者に修了証を授与することで本学が適任者として認証するシステムであること、オンラインを活用した養成セミナーを準備中で学外向けに有償で提供する方針であること、すでに多数の学生が各地の中学などで部活動指導にあたっていることなどを説明した。

また、競技の経験がない指導者向けに初歩からの指導法を解説したバスケットボール、剣道など6競技の動画について、比嘉准教授が映像を見ながら解説。本学が泉大津市とともに実践している、特定の種目にとらわれずにスポーツを楽しむ同市内3中学の「合同ゆる部活動」について、指導者を務める大学院博士前期課程1年の池田篤史さん、八木原綾音さんが実践報告を行った。さらに、「スポーツのインターネットを活用した指導（ソフトテニスオンラインスクール）」のテーマで株式会社GO代表取締役社長の中村鉄太郎さん、「吹奏楽部運営の問題点と大阪国際学園『芸術文化教育センター』の取り組み」のテーマで、同センター長の朝倉洋さんが登壇した。このほか、研究協議（意見交流）では神谷会長の司会で討議が行われ、参加者から活発な質問が寄せられた。ホテルの会場では、受付・案内などを担当した本学などの学生の笑顔、礼儀正しさ、はつらつとした行動が参加者から好評を博した。

特別支援教育 「教育講演会」 共生社会の構築に向けてパラスポーツが果たす役割を考える

地域公開講座・特別支援教育教育講演会が2月19日、「共生社会の構築に向けてパラスポーツが果たす役割を考える」をテーマにオンラインで開催された。

はじめに、パラリンピック2回出場の花岡伸和・日本パラ陸上競技連盟副理事長が「パラスポーツは共生社会につながるのか?」と題して講演した。

花岡さんは車いす陸上のトップアスリートで、東京パラリンピックでは中継で解説を務めた。

花岡さんはパラスポーツの歴史を振り返ったうえで、「スポーツには人をつなぐ効果がある。これからのパラスポーツは個人のメリットだけのスポーツから、社会メリットのあるスポーツになる必要がある」と指摘した。例として、車いすバスケットボールのプレーを終えた男性たちが

1人を残して立ち上がりビールを楽しむCMを紹介し、「スポーツはさまざまな境界（ボーダー）を越えて友達を増やすことができる一つの方法だ」というメッセージを示している」と説明した。また、講演に訪れた小学校で、児童たちが担任の先生同士の車いすレースを大声援で応援して盛り上がり、「この時の児童の気持ちは『車いすは大変、ではなく楽しい』。楽しい!の先には違いを認め合いい、互いに幸せを感じられるより良い社会があるはず」と語った。

また、「様々なパラスポーツから共生社会を考える」をテーマに教育シンポジウムが行われた。

「パラスポーツ」とはパラリンピックで実施される競技だけではなく、もっと広く障がい者が楽しむスポーツ全般のこと。シンポジウムではパラリンピックスポーツではない競技



開会のあいさつを述べる植木章三教育学部長



司会を務めた曾根裕二教育学部准教授(アダブテッド・スポーツ)



手話を交えて閉会のあいさつを述べる教育学部特別支援グループ長の藤原彰子教授(特別支援教育)

創作ダンスを披露する「Dance Assemble アマカマ・ドウ」



を取り上げた。

日本パラダンススポーツ協会の前山友美さんがパラダンススポーツ、横浜市立ろう特別支援学校の竹花康太郎先生がろう者のデフスポーツ、大阪府立すながわ高等支援学校の吉本早織先生が知的障がい者のスペシャルオリンピックスにおけるユニファイドの取り組み、東京都立永福学園の山田晴信先生が重度肢体不自由者も参加し楽しめるハンドサッカーについて、競技の特徴や魅力を説明。その後、活発な質疑応答が繰り広げられた。

このほか、インクルーシブなダンスグループ「Dance Assemble アマカマ・ドウ」が創作ダンスを披露した。

富部(大学院)がアジア大会代表 セーリング選考会で優勝



富部柚三子さん(大学院博士前期課程2年)

第19回アジア競技大会(9月、中国・杭州)のセーリング日本代表選考会が2月23〜27日、神奈川県・江の島で行われ、大学院博士前期課程2年の富部柚三子さん(福井県スポーツ協会)がILCA6女子クラスで優勝し、日本代表に内定した。

富部さんは「絶対に勝ちたいというプレッシャーから苦戦したが、大学院の指導教官である土屋裕陸先生から学んだスポーツ心理学を生かして戦うことができた」と選考会を振り返った。アジア大会に向けて「海外での活動が中心となるが、大学院の遠隔学習システムを活用して文武両道を目指し、国際大会で金メダルを獲得するという夢をかなえたい」と意気込みを語った。



「Nami ダン」ムービー完成

浪商学園 100 周年記念ダンス

大阪体育大学などを運営する浪商学園の創立100周年記念ダンス「Nami ダン」ムービーが完成した。

「Nami ダン」は創立100周年を記念して創作されたオリジナルダンス。白井麻子准教授（舞踊学）の研究室の学生らが設置校の本学、大阪体育大学浪商中学・高等学校、大阪青凌中学・高等学校、大阪体育大学浪商幼稚園を巡り、一緒に踊りながら撮影した。

大学ではキャンパスやスポーツ施設などを舞台にダンス部、ハンドボール部、陸上競技部、剣道部などの部員や教職員、原田宗彦学長、野田賢治理事長らがダンスしている。浪商学園は大正10（1921）年に創立され、昨年11月、100周年を迎えた。

皆様も
Let's Dance!

「Nami ダン」ムービー

踊り方ムービー

学長特別表彰

8 選手と 2 クラブに

国外・国内トップレベルで活躍

学長特別表彰式が1月27日、オンラインで開催され、国外・国内のトップレベルの競技大会で今年度に顕著な成績を収めた8選手と2クラブが表彰された。

受賞したのは、硬式野球部女子（第11回全国大学選手権大会初優勝）▽ハンドボール部女子（第57回全日本学生選手権大会8連覇）▽水上競技部女子・宇津木美都（東京パラリンピック競泳女子100m平泳ぎ6位=SB8）▽自転車BMX・藪田寿衣（BMX スーパークロスワールドカップ総合3位）▽自転車BMX=増田優一（ジャパン・カップ優勝）▽なぎなた部=志藤すず穂（第60回全日本学生選手権大会個人の部優勝）、井口晴奈、阿部真優（同大会演技の部優勝）▽陸上競技部=武本紗栄（第90回日本学生対校選手権大会女子やり投げ優勝など）▽アダプテッド・スポーツ部・内田峻介（第23回日本ボッチャ選手権大会BC4クラス優勝）の皆さん。

中央棟の会議室と各選手をオンラインで結んで表彰式が行われ、原田宗彦学長が受賞者それぞれに画面越しに表彰状を読み上げ、理事長奨励金、教育後援会からの副賞を授与した。

表彰の後、原田学長が「大きな大会で活躍することは大学のブランド力を高めます。これからも競技レベルと人間力を磨いて活躍してください」とお祝いの言葉を述べた。

また、硬式野球部女子の戸室知奈美さんが「コロナ禍の厳しい状況で部活ができることに感謝したい。ここ数年準優勝で悔しい思いをしていたが諦めずに努力した」、宇津木さんは「2024年のパリ・パラリンピックを目標により良い結果を残したい」と、それぞれ受賞者を代表してあいさつした。



リモートで実施された学長特別表彰式

大島鎌吉スポーツ賞を授与

浜上、楠本、中西氏に



大島鎌吉スポーツ賞を授与された浜上、楠本監督、中西コーチ（右から2人目から）

本学学生のスポーツ指導に顕著な業績を残した指導者に贈られる大島鎌吉スポーツ賞の授与式が、2月8日に本学で行われた。

水上競技部女子監督の浜上洋平講師が功労賞、ハンドボール部女子監督の楠本繁生教授と陸上競技部女子コーチ（投擲）の中西啄真助教が奨励賞を受賞し、野田賢治理事長から盾と目録が贈られた。

この賞は本学の初代副学長で、1964年東京五輪で選手強化対策本部長・選手団長を務めた大島鎌吉氏の功績をたたえて、本学が創立50周年を迎えた2015年に創設された。

選出基準は、功労賞は在任中に五輪・パラリンピック、世界選手権大会、アジア大会の日本代表や日本新記録の樹立、それに匹敵する成績を収めた選手の指導育成に顕著な功績があった指導者、奨励賞はインカレ優勝やユニバーシアード大会、全日本選手権大会個人3位・団体8位以内またはこれに準ずる成績を収めた選手の指導育成に顕著な功績があった指導者。選考委員会で選考される。

昨年、浜上監督は、指導する宇津木美都選手（教育学部1年）が東京パラリンピック女子100m平泳ぎ（SB8）で6位入賞。楠本監督は全日本インカレでチームを優勝（8連覇）に導き、中西コーチは、指導する武本紗栄（体育学部4年）が日本インカレ女子やり投げで初優勝した。

大阪弁と笑い

作家の藤本義一は、『大阪人と日本人』で「私は大阪国籍で生きている者です」と宣言した。

それならばとも大阪国籍で生きている。はじめて近畿を出たのが高校の修学旅行というくらい、オール大阪の生活をしてきた。

とはいえ、テレビはまったく違っていた。ほとんどの番組が東京だった。だから大人の洒落た会話は「ザ・ヒットパレード」(1959年～1970年)で覚え、東京の庶民の生活は「ただいま11人」(1964年～1967年)の早乙女家で知り、東京の笑いは「お笑い三人組」(1955年～1966年)の「あまから横丁」で繰り広げられる三遊亭小金馬、一龍齋貞鳳、江戸家猫八の絶妙な掛け合いで体験した。

高校生になると、どっぷり東京が舞台のドラマが好きになっていた。とくに1967年から始まった「木下恵介アワー」の「3人家族」(1968年～1969年)、「兄弟」(1969年～1970年)、「二人の世界」(1970年～1971年)に夢中だった。当時のぼくは、まだ見ぬ恋人に同級生ではなくヒロインの栗原小巻や秋山ゆりを重ねていた。

やがて大学院生になり、はじめて東京の地下鉄に乗ったとき、サラリーマンらしき男性の会話が聞こえてきた。声質や口調が栗原小巻の相手役をしていた竹脇無我そっくりだった。会話の主を見ると普通の会社員だった。

「えっ、東京ではあの話し方が普通なの！」

衝撃的だった。栗原小巻を恋人にするにはぼくの喋りでは無理だと悟った。

大阪の言葉は大阪弁という方言だと考えられているが、まったく違う。大阪の言葉はじつは別の言語なのだと思う。

これはおかしな話ではない。一国で複数の言語をもつ国はたくさんある。たとえばスイスにはスイス語と呼ばれる言語はないが、ドイツ語とフランス語とイタリア語が使われている。

またドイツにいた頃、スペイン人とイタリア人がそれぞれの自国語で会話をしていて驚いたことがある。不思議な顔をしていると、「普通にスペイン人はイタリア語を80%、イタリア人はスペイン語を70%理解できるよ」(個人の感想です)と言われた。両方ともラテン語から分化した言語である。そう考えると東京と大阪も同じで、大阪人は東京語を90%理解でき、東京人は大阪語を70%理解できる(かも)。そこで「大阪国籍」を標榜するならば、大阪の言葉は「大阪弁」ではなく、「大阪語」という「言語」だと主張したい。

たとえば大阪の喫茶店で「フレッシュ、下げてもいいですか」と店員が言ったとき、「えっ」という顔をしてはいけない。そんな顔をするのは、「フレッシュ」を「新鮮」と考えるからで、大阪では喫茶店の「フレッシュ」は「ミルク」のことだ。

また女性にデートを申し込んだとき、相手から「考えときます」と言われたら、東京では、I think about it と思う。だからまだYesかNoかきめてはいけません。そうすると次に会ったとき「どうですか?」となる。訊ねない方が不作法だ。これが大阪では、婉曲のNoを意味する。次に会っても訊ねてはいけない。訊ねる



酒井藍さん(なんばグランド花月前)



コラム **ボシヤ**

名誉教授 和田隆夫

と野暮な人になる。

発音も違う。たとえば東京人は「ひ」を「し」と発音する。百円(ひゃくえん)が「しゃくえん」となる。逆に大阪人は「し」を「ひ」と発音する。質屋(しちや)は「ひちや」で、さらに「ひつちや」と変化する。そういえばぼくは京阪電車の七条駅(しちじょうえき)を「ひちじょうえき」と発音している。

1980年代が終わる頃、地下鉄の竹脇無我に打ちのめされていたぼくに転機が訪れた。当時、法政大学で民法(物権法)の集中講義を担当していた。受講生は200人以上いた。大教室の最前列には高齢の男女がずらりと席を占め、熱心に聴講してくれた。そのなかのいかにもきつぷがいい男性が「先生、今日の授業はおもしろかったよ」などいつも感想を述べてくれた。最後の講義が終わったとき「先生の関西弁、よかったよ」と言われ、東京から「承認」されたように感じた。しかし時すでに遅しで、とくに大阪の女性と結婚してしまっていた。

大阪弁に対する東京の「承認」は、「男女7人夏物語」(1986年)で明石家さんまが大竹しのぶと大阪弁で秀逸な掛け合いを演じたことや、のちに大竹しのぶと結婚したことが契機のように思う。元はと言えば、脚本家の鎌田敏夫がトレンドドラマに大阪弁を組み込んだことから始まっている。

このように東京の番組に囲まれながら、「やりくりアパート」(1958年～1960年)にはじまり、「番頭はん」と「稚どん」(1959年～1961年)、「スチャラカ社員」(1961年～1967年)、「てなもんや三度笠」(1962年～1968年)といった大阪のお笑いで笑いつづけた。藤田まことが強壮剤のアンブルをストローで飲み干し、「きてきた〜」という番組内の広告映像が流れるや、年長のいとこは「それや」と叫び薬局に走った時代である。

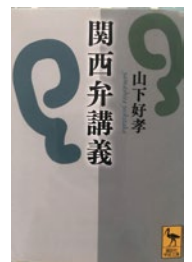
きわめつけの番組は「吉本新喜劇」(1962年～)だった。土曜日12時54分からの放送で、お好み焼きを食べながら笑うと最高だった。

大阪の子どもたちはいつも、こうしたお笑い番組や大人のやりとり染まって、漫才のボケとツッコミを身につけていく。ボケは、冗談、明らかな間違い、勘違いを会話に織り込み、ツッコミは、このボケの間違いなどを指摘して観客に笑いどころを提示する。つまりツッコミがないと笑えないのである。

大阪人は打ち合わせなしに日常でむやみにボケとツッコミをする。するとそこにはいつも笑いがある。

ここだけの話だが、学部長のとき教授会で会議ごとにせめて1回の笑いをとりたいたいと思っていた。これには成功体験があった。まだヒラの教授だった頃、教授会で思い切ってボケをいれたところ、他県出身の学部長にスルーされて困っていると、大阪出身のKH先生がツッコミを入れて助けてくれたことがある。教授会后、笑って「ツッコミ入れましたよ」と言われた。

ぼくの不幸は、この「大阪人の密かな愉しみ」を試みようとしたときすでにKH先生は退職していたことにある。結果は言うまでもない。



大阪弁を学ぼう
名著です



◆◆中学などの運動部活動が大きな曲がり角を迎えています。

長時間勤務にあえぐ教員のために部活動指導の負担を減らすことが急務です。少子化に伴って教員の数が減っています。このため、部活動の指導者が足りません。スポーツ庁は週2回の休養日や週末の部活動の地域移行など対策を検討していますが、解決の決め手になるかは未知数です。◆◆本学の学生・卒業生はもちろん、家族・保護者の方も地域や高校の先生方も中学生のころの部活動には数多くの思い出があるのではないでしょう。か。部活動には行き過ぎた指導など解決すべき課題がありますが、生徒一人ひとりがチームの仲間と心一つに目標に向かって汗を流した経験は貴重で、部活動は次世代にも残すべき「財産」ではないかと思えます。

◆◆11ページで、本学が企画・運営した日本部活動学会研究集会について詳細しました。本学は部活動指導ができる学生を養成するために独自のプログラム「グッドコーチ養成セミナー」を開設し、すでに多数の学生が各地の中学校などで部活動の指導にあっています。学生の力で部活動の危機に挑む本学の先駆的な研究と実践。メディアからも高く注目されています。

【大坪康巳】

OPEN CAMPUS

オープンキャンパス

来場型

2022

7/17_(日)・8/6_(土)

8/7_(日)・8/11_(木・祝)

WEB オープンキャンパス LIVE

WEB

2022

4/24_(日)・5/29_(日)

6/26_(日)

※ 日程および内容は変更される場合があります。

詳細は入試情報サイトを
ご覧ください。



本物を学び、極める

大阪体育大学

【大学院】

- スポーツ科学研究科
博士（前期・後期）課程

【体育学部】

- スポーツ教育学科
- 健康・スポーツマネジメント学科

【教育学部】

- 教育学科

大学事務局

庶務部、教学部、入試部、広報室
キャリア支援部、大学院事務室

大学附置施設等

図書館、スポーツ局、社会貢献センター
情報処理センター
スポーツ科学センター
国際交流センター、学習支援室

<https://www.ouhs.jp/>

OUHSジャーナル 2022年（令和4年）4月1日（金）

発行所：大阪体育大学 広報室 発行責任者 大坪康巳 協力：教育後援会・校友会

大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1 電話（072）453-7021 FAX（072）453-8818